

令和2年度下根中学校第1回校内研修

協働的な学びの 哲学と理論

令和2年4月3日(金)

























対頂角だから $\angle AMP = \angle BMQ$ ②
平行線の錯角だから $\angle PAM = \angle QBM$ ③
① ② ③ から 1組の辺とその両端の角が
それぞれ等しい
 $\triangle PAM \cong \triangle QBM$
対応する辺だから $PM = QM$

3 合同条件

4

ふり返









次期学習指導要領(文部科学省)

これからの社会を生きるために求められる

『3つの資質・能力』

社会や生活で生きて働く **知識・技能**

未知の状況にも対応できる

思考力・判断力・表現力等

学んだことを人生や社会に生かそうとする

学びに向かう力・人間性等

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

協働的な学び

を支える

哲 学

民主性

公共性

卓越性

・民主性

：全ての子どもの**学びが保障**され、**学びの主人公**となって**共通の目標**に向かって**仲間と協働**すること

・公共性

：**公教育**という**使命**をもち、内外に開かれていて、**多様な考えを交流**しながら**協働し社会参加**すること

・卓越性

：他との比較ではなく、**自分のでき得る最高のもの**、**自己ベスト**を追求することに**価値を見出す**こと

学びの哲学
に基づく
学校の姿

**子どもたちがよりよい自分になる
ために共に学び合う場**

**教師も教育の専門家としてでき
得る最高の仕事を目指して同僚
と共に学び合う場**

**保護者や市民も教育活動に参加
しながら新たなことを学び合う場**

私たちのミッション

すべての子どもが
自分の力で幸せに
なれるようにすること

「自分の力で」とは？

- ・他者に依存できる
- ・他者と協働できる
- ・ひとりでできる

ミッション遂行のための

共有ビジョン

**協働的な
学び**

ケアリング

**これらに基づいた
授業・学級・学年・学校づくり**

**協働が必要なのは
なぜか？**

これからの社会に求められるのは

正解のない課題に向き合い

最適解を導き出すこと

異なる多様な人たちの
グループで

いくつかの
教科等を組
み合わせて

ICTと人間の
感性を組
み合わせて

教科書の問題が解けるだけでいいのかな・・・。



我々は
生徒にこのような力が付く授業を
しているだろうか・・・。

学習者中心主義

まちがえてよい

紆余曲折することに価値

「ここがわからない」

「友だちに訊いてみたら」

「資料を見るとわかるかも」

（つなぐ・もどす・足場かけ）

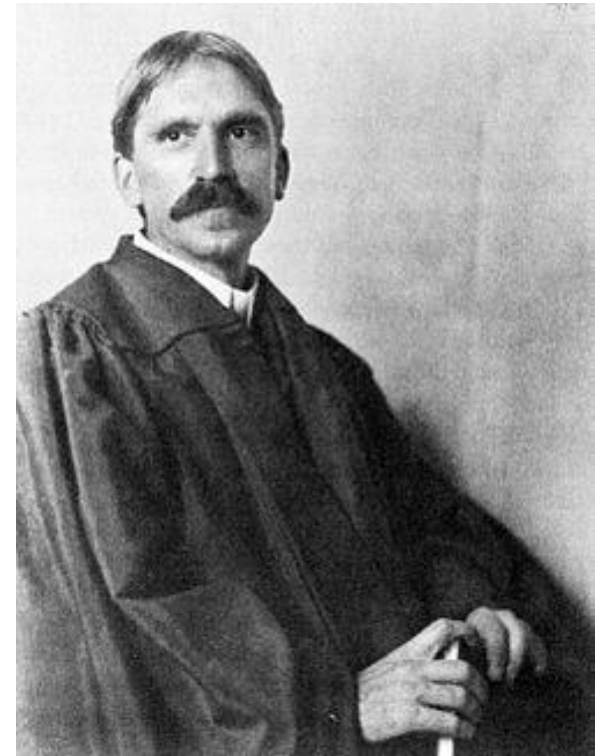
振り返ることで体験が経験に

（振り返り・リフレクション）

地域社会を教育資源に（コミュニティ・スクール）

協働による民主的・公共的な社会参加

J. デューイ



L. ヴィゴツキー



低学年は内言が未発達。思考を援助
するパートナーが必要。(ペア学習)

発達とは自分の限界を少し超える

課題に挑戦すること(ジャンプの課題)

最近接発達の領域＝次に続く発達の領域

(まだひとりではできないが仲間と一緒にならできる)

科学的知識の教授によって子供の科学的概念の発達
が終わるのではなく、まさにそこから始まる。

ヴィゴツキーの「最近接発達の領域」

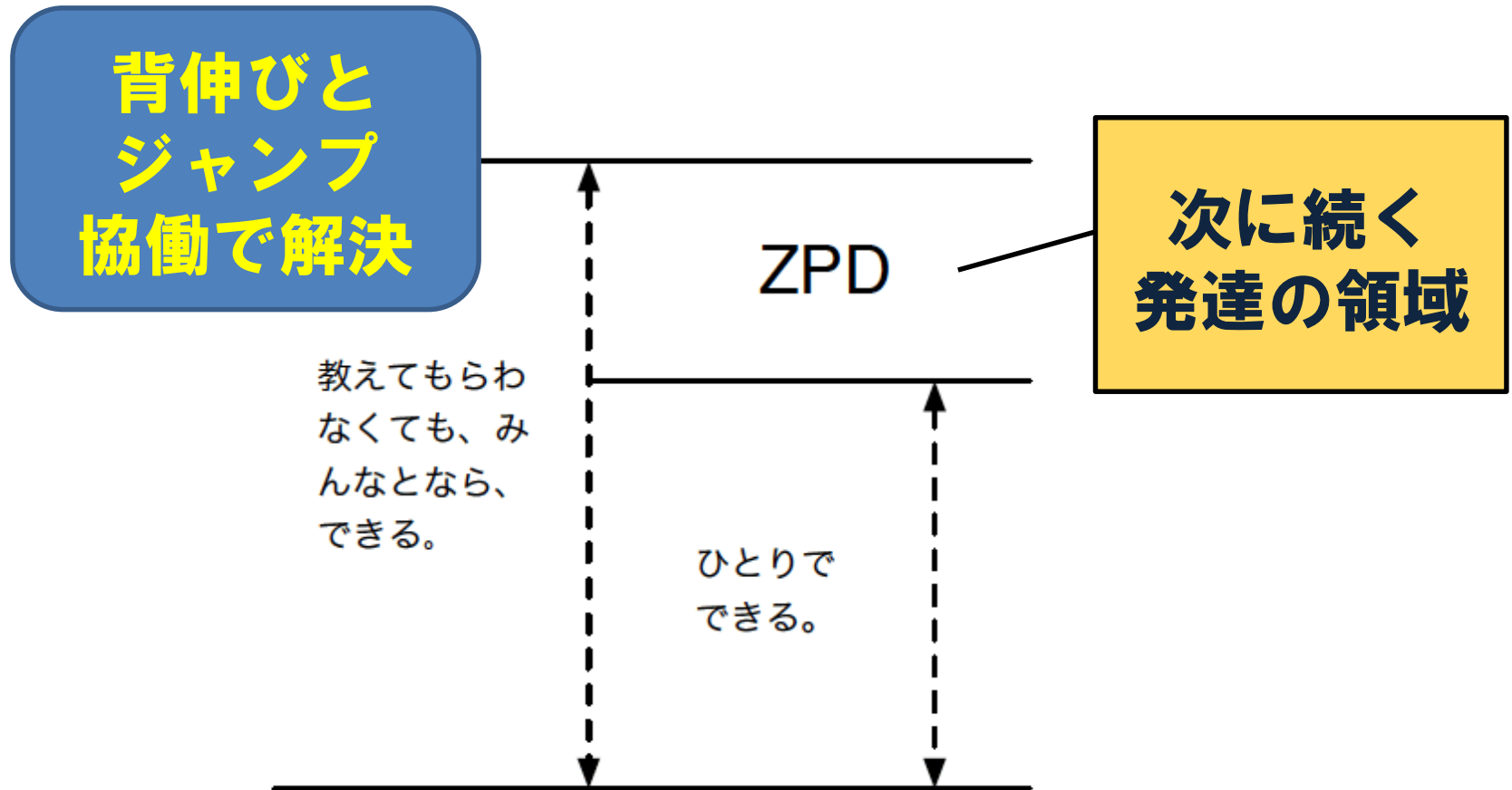


Figure: Original by Mitzub'ixi Quq Chi'j
ZPD, Zone of Proximal Development, зона ближайшего развития.
L.S. Vygotsky: Mind in Society: Development of Higher Psychological
Processes, p. 86, Cambridge, Mass.:Harvard University Press.

ネル・ノディングズ



じっくり待つ
傾聴する
気にかけていること
が相手に伝わる

ケアすること, ケアされることは
人間の根源的ニーズ

学校の第一の仕事は

子供たちをケアすること

困り感に寄り添うこと

その子供を丸ごと引き受け

その子供のために心を砕くこと

ケアリングは

呼びかけと応答で成立

授業において「学ぶ」とは

未知の課題に出会う

個別 / 協働探究・必要なら訊く
説明をする / 聴く・モニターする
借用する・見直す・腑に落ちる
まとめる・振り返る・メタ認知する

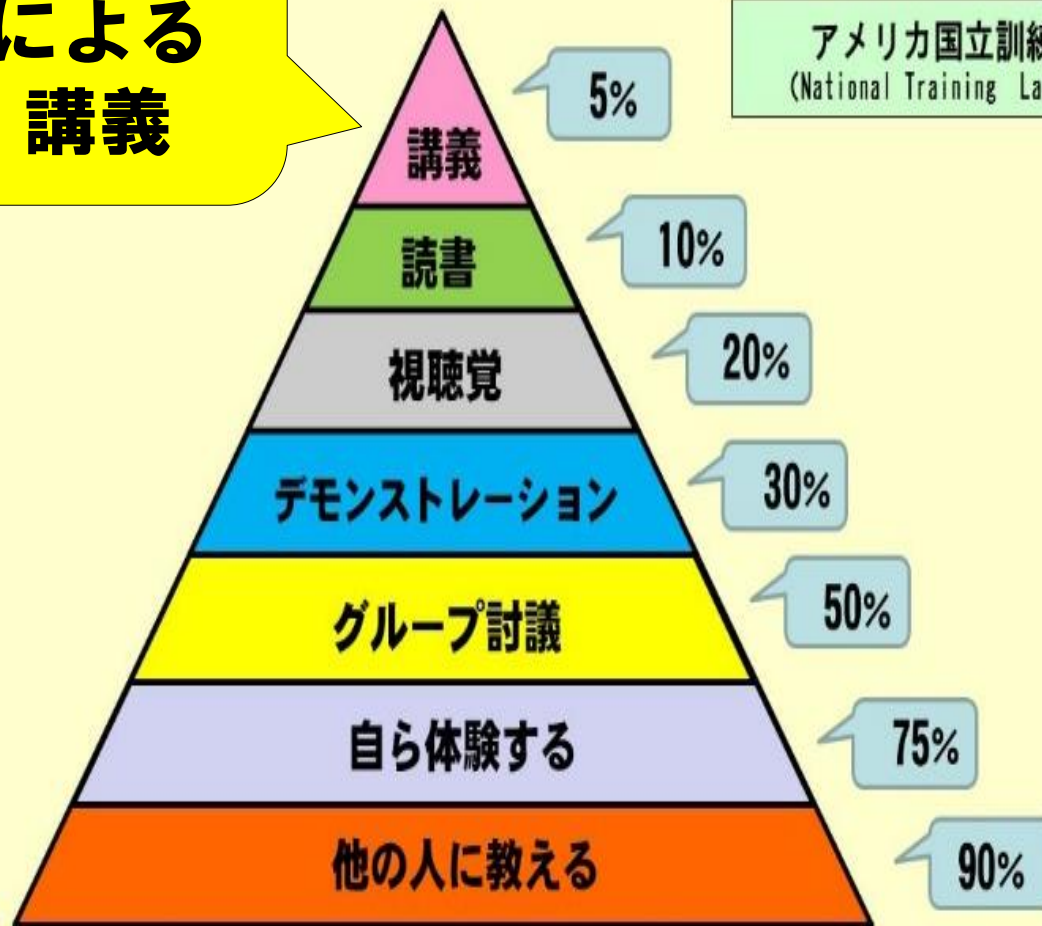
学びには
他者が必要



4人グループを構成
(低学年はペア。内言が未発達)

学習方法による知識の定着率

教師
による
講義



グループ
による
協働

協働的な学びの 活動システム

学校全体で行うこと

- **授業研究**を学校経営の中心にします。
- **聴き合う関係**を学級経営の基盤とします。
(ケアリング・マインドで丸ごと引き受ける)
- **経験に関わらず学び合う授業をつくれる「活動システム」**を取り入れます。

【活動システム 1】 授業で取り組むこと

- ミッションでつながる4人グループでの学びを主とする。
- 限界を少し超える課題に出会わせ挑戦させる。
- 資料を用意する。(さわれる・動かせる・比較できる)
- 全体で確かめたり共有したりする時はコの字型にする。
- わからなかったら「ここどうするの？」とたずねる。
- わからないこと、途中の考え、異なる考えに価値づけ
- それらを授業の中心にして、わかるまで探究する。

【活動システム 2】 教師が心がけること

- 「学ばなくてよい子供は一人もいない」が基本。
- 声のトーンやテンションを下げて**簡潔に語る**。
- 「**聴く**」「**つなぐ**」「**もどす**」に専念する。
- **納得できないこと、よくわからないこと**を取り上げる。正解だけを探すのではない。
- 子供の学ぶ様子に応じて**即時的・創造的に授業デザインを修正**する。（子供が見える教師）

【活動システム 3】 校内研修として実践していくこと

- 全ての教師が同僚に授業を公開する。
- 授業の観察にもとづく事例検討会をもつ。
- 事例検討会は参観した教師が自分の授業の質を高めるために成長することを目的とする。
- 教師がどう教えたかよりも、子供がどう学んだかを子供の事実をもとに検討し合う。
- 研修の主体は参観者。自分の解釈を同僚との交流で確認，修正，自分化する。

【活動システム 4】 保護者や市民の皆様に

- いつでも授業を参観できるようにする。
- 学習に参加して子供と共に学ぶ機会をつくる。
- 授業づくりの支援をしていただく機会をつくる。

【活動システム 5】 他の学校との関わり

- 校内研修を公開し、参観者から批評を受ける。
- 他校の授業研究会にも参加し、授業を見る目を養い、自らの授業力向上を目指す。

【活動システム 6】全職員で心がけること

- 子どもひとりひとりに丁寧に向き合う。
- 校外の方々には誠心誠意笑顔で応対する。
- きれいであたたかい環境づくりに心がける。
- 花一輪、そこにあることに意味がある。

**学びの活動システムを
取り入れて期待されること**

子供はこう変わる

- 子供は協働的な学びを通して**友だちとの関係がよくなり、自己有用感をもつ。**
- 子供は学級に心の居場所ができて、**安心して学びに向かうことができる。**
- 子供は多様な考えを聴き合い、多角的に説明し合うことで**論理性や思考力が高まる。**

教師はこう変わる

- 子供の学ぶ様子に応じて柔軟に授業をデザインするようになる。
- 子供がより夢中になるような興味深い課題を考える。それが教師のやり甲斐になる。
- 同僚の授業から学びながら自分の授業の質をより一層高めていくようになる。
- 子供や保護者、地域住民をより一層大切にようになる。

保護者や市民の皆様は

- 保護者は自分の子供の**学ぶ様子を見て子供理解をさらに深めていく。**
- 子供と学習内容を共有することで**親子のコミュニケーションが活性化**する。
- 学校や地域の教育活動に関わることで、**学校と地域の相互理解が深まる。**

協働的な学びの学校では

- 聴き合うことで個々の存在が認められ、子どもたちの**自己有用感**が高まる。自己実現に向けて安心して生活し、学べる環境がつくられる。
- **校長を始めとする全教職員**で、協働的な学びの学校づくりに取り組んでいく。
- そのためには、**保護者や市民の皆様の理解と協力**が必要。

「地域と共にある学校」として

- そのために、学校内では、**同僚に授業を開き、互いに授業力を高め合う研修**を行う。
- 地域社会との関わりでは、「**保護者や地域住民の皆様と共にある公共の施設**」としての役割や使命(ミッション)を果たしていく。